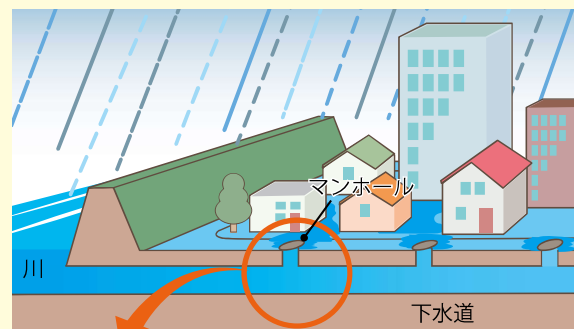


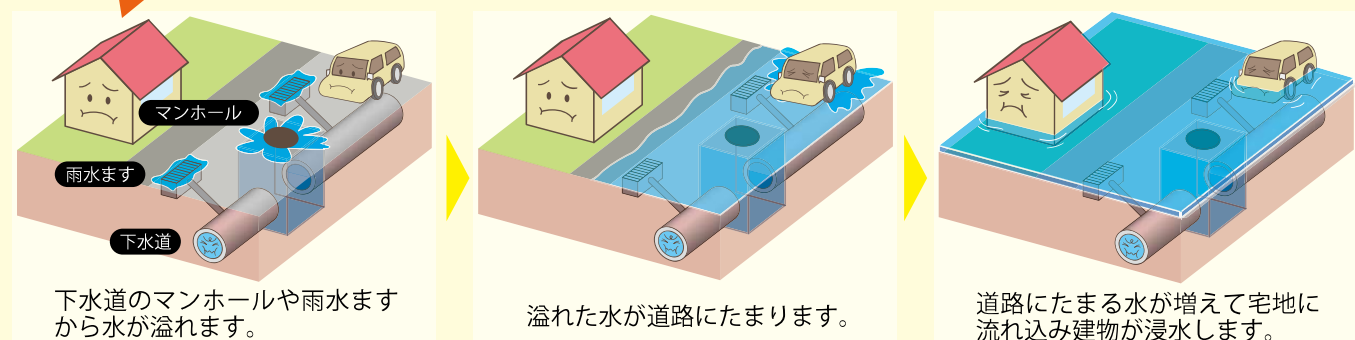
1 内水氾濫と洪水のちがい

内水氾濫とは

- 大雨により下水道などで雨を排水しきれず、地上に溢れることで発生する浸水です。
- 短時間であっても強い雨が降った場合や大雨により川の水位が上がった場合などに起こりやすい比較的発生頻度の高い浸水です。



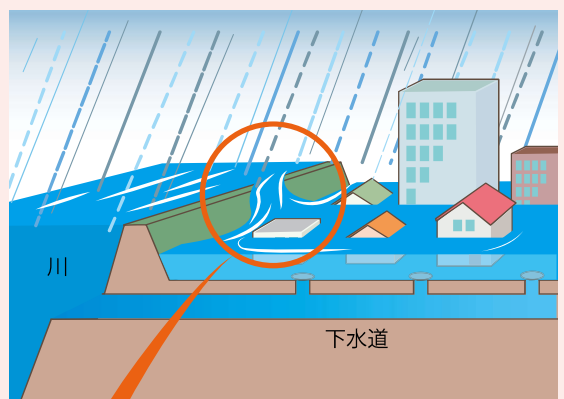
浸水規模	▶局地的で浅い（洪水に比べて） ▶道路が冠水したり、建物の1階が浸水するおそれ
取るべき主な行動	▶建物の2階などの高い場所へ避難 ▶水のうの設置（P20の④を確認）
確認する避難地図	内水氾濫避難地図（P3～P16の左側ページ）



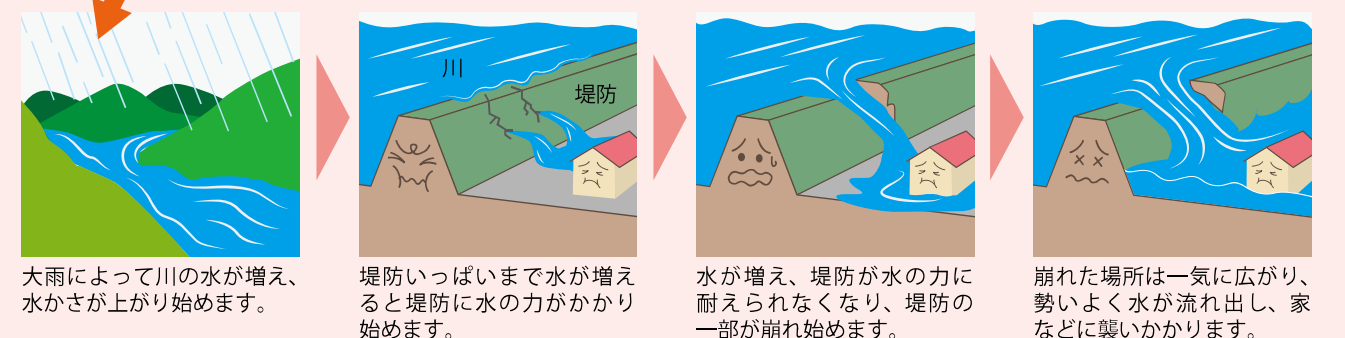
大雨が降り続くなどすると

洪水とは

- 大雨により川が増水し、堤防を越えて水が溢れたり、堤防が決壊したりすることで発生する浸水です。
- 長時間にわたって大雨が降り続いた場合などに発生する危険性があり、発生頻度は低いものの、甚大な被害をもたらします。



浸水規模	▶広範囲で深い ▶建物の2階以上まで水没したり、建物が流されてしまう危険性
取るべき主な行動	▶指定緊急避難場所（P21を確認）などへ速やかに避難 ▶避難が遅れた場合は、少しでも浸水しにくい高い場所へ直ちに避難
確認する避難地図	洪水避難地図（P3～P16の右側ページ）



2 避難地図 浸水の想定条件

- この避難地図（P3～P16）は、最大規模の浸水に備えるために、想定し得る最大規模の降雨により想定される浸水区域を浸水の深さに応じて色を分けて表示した地図で、水防法の規定に基づき作成しています。
- 浸水シミュレーションによる想定ですので、着色されていない場合でも、浸水が発生しないということではありません。
- 土地利用や雨の降り方、下水道や川の整備状況などによっては、実際の浸水状況と異なることがあります。

内水氾濫

▶下水道で雨を排水しきれず発生する浸水

想定降雨	下水道は比較的流域が小さく、 <u>短時間の強い雨</u> が降った場合に浸水規模が大きくなる特徴を踏まえ、以下の降雨を想定しています。 総雨量 125mm / 1時間
浸水の想定方法	▶大雨を排水しきれず地上に溢れると想定される市内の下水道について、その溢れた水がどのように氾濫し広がっていくかを予想しています。 ▶実際は、大雨が降った地域周辺において下水道から水が溢れ、浸水が発生します。

※下水道で雨を排水していない区域（計画外区域）および市外は浸水想定の対象としておりませんので、内水氾濫避難地図（P3～P16の左側ページ）では灰色（)で着色しています。
 ※土地利用状況は国土地理院国土数値情報（平成21年（2009年）までの調査結果）をもとに設定しています。
 ※下水道の整備状況は令和2年（2020年）3月末時点です。

洪水

▶川が氾濫することで発生する浸水

想定降雨	川は比較的流域が大きく、 <u>長時間にわたる大雨</u> が降った場合に浸水規模が大きくなる特徴を踏まえ、川の流域の大きさに応じて、以下の降雨を想定しています。 豊平川(下流)：総雨量 406mm / 72時間、石狩川：358mm/72時間 琴似川・琴似発寒川：総雨量 473mm / 24時間 界川・創成川：総雨量 125mm / 1時間、左股川：124mm / 1時間 ※中央区に、浸水が想定される区域がある川のみ掲載
浸水の想定方法	▶堤防の決壊が想定される全ての箇所について、どのように氾濫し浸水するかを予想し、それらの結果を重ね合わせ、浸水の区域と深さを表示しています。 ▶実際は、それらのうち限られた箇所が氾濫し、浸水区域が広がりながら徐々に深くなります。

▶「札幌市地図情報サービス」（P23を確認）では、自宅などがどの川の浸水想定区域にあるか確認できます。

土砂災害にも注意してください

- 大雨が降った場合には、土砂災害が発生する危険性もあります。
- この避難地図（P3～P16）では、土砂災害警戒区域（)も掲載していますので、必ずご確認ください。
- 自宅などが「土砂災害警戒区域」にある場合は、指定緊急避難場所（P21を確認）などへ避難しましょう。



土石流

山腹や川底の石や土砂が集中豪雨などによって一気に下流へと押し流される現象

がけ崩れ

山の斜面や自然の急傾斜の崖、人工的な造成による斜面が突然崩れ落ちる現象

地すべり

斜面の一部あるいは全部が地下水の影響と重力によってゆっくり斜面下方に移動する現象